

平成 23 年 6 月 23 日

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合
(6 月 16 日(木))
アクションプラン関連の議事要旨

【アクションプランの骨子について】

(主な意見)

(金澤議員) イー4の3ページの「復興・再生並びに災害からの安全性向上」について、「災害から命を守る」ではなく、「命と健康を守る」等、健康という言葉が政策課題に入れたほうがよいのではないか。

(奥村議員) 命を守るというのが重要なキーワード。政策課題に「健康」を入れると、焦点がぼけることを懸念している。放射性物質のところには、「健康への影響に対する不安を除く」ということで、金澤議員からの提言を入れている。放射線のところに特化してミニマムに入れているのは、地震、津波に関しては命を守ることが最優先のため。

(相澤議員) 復興・再生の重点的取組は、地震と津波と放射性物質が平行になり、それで整理が難しくなっているところもある。

(中鉢議員) ここでは命を広義にとって、健康も一部に含んで、命といっているのではないか。

(相澤議員) 金澤議員のご指摘は、命という言葉を使って放射性物質を扱うこと自体が誤解を与えるのではということである。

(本庶議員) 「命と健康」が良いのではないか。「津波」の中でも医療の提供が重点的取組の候補となっている。命が奪われなくても、健康への影響も重要であり、メッセージが薄まるということではないと思う。

(相澤議員) 政策課題に健康を入れるということが、特に矛盾しないのであれば、入れてもいいのではないか。

(奥村議員) 検討する。

(本庶議員) 今年のライフイノベーションには去年のアクションプランから継続した取り組みが候補に入っている。グリーンイノベーションは全部入れ替わるのか、もしくはもっと細かいレベルで継続があるのか。

(相澤議員) 継続施策もあるが、全体のフレームワークが変わった事から、去年と違う枠になる場合がある。また、昨年度と比べると、重点的取組の対象が広がっているところもある。今回は大きくくり化を進めていることもあり、今年度は継続課題が単純には出てこない。

(奥村議員) 復興・再生自体が追加されており、またライフイノベーションでも追加があり、それにグリーンイノベーションでも幅が広がり、長期で見ると今後増えすぎる恐れがある。アクションプランの永続性のためには、どこまでやるか設定しておく必要があるのではないか。政策の重要性を鑑み、復興・再生も年限を区切っている。ライフ、グリーンにもご検討を頂きたい。

(中鉢議員) 復興・再生の4つめの政策課題「災害からモノ、情報、エネルギーの流れを確保し、

<大臣・総合科学技術会議有識者議員会合資料：検討中資料>

創る」は、「社会インフラ整備」等の簡単な表現にした方が広がりが出るのではないか。

(奥村議員) 必要最小限に特化するため、あえて具体的なものを絞り込んで入れている。社会インフラ整備にすると收拾がつかなくなる。

(中鉢議員) グリーンイノベーションの1つ目は「クリーンエネルギーの安定的供給」とすると、安定化技術と創出する技術とがわかりにくい。安定化技術は分散型エネルギーシステムの中のエネルギーマネジメントに含まれるものであり、またマネジメントはエネルギー消費低減にも関わる。グリーン4つの政策課題については、重なりがあるようになっている。

(相澤議員) 1つ目は基幹エネルギーとしての安定供給であり、2つ目は中小規模の発電による分散型エネルギーシステムである。クリーンエネルギーには火力等も入るが、その中でも技術革新により再生可能エネルギーを拡大するというニュアンスで、総エネルギーの安定的確保を目指している。

(奥村議員) 実際の政策として、再生可能エネルギーに時間軸を入れるべき。基幹エネルギーの代替を目指すなら、再生可能エネルギーをいつまでにどうするかを入れないと、安定供給が誤解される。

(相澤議員) 時間軸は国のエネルギー政策と対応するものであり、それを見直し中の今は書けない。時間軸の入った具体的なターゲットを書かないといけませんが、国として、どのようにしていくかという目標がわからないと書けない。ただ、基幹エネルギーの不安定状態をなんとか安定状態にしたい。

(中鉢議員) 理解したが、どのように基幹エネルギーにしていくのか。不安定な再生可能エネルギーを安定化していく話と、総量を増やす話が両方書かれているが、タイトルと合っているのか。

(相澤議員) 再生可能エネルギーが基幹エネルギーになるのは簡単ではない。一つ目の政策課題は、基幹エネルギーに対する再生エネルギーの寄与。二つ目は、基幹エネルギーに寄与しなくても、分散型で、エネルギーの自立的なシステムが充実されるべきであろうということ。これらの二つの軸を進めるべき。加えて、エネルギーの利用側で省エネルギーを測らないといけない。

(奥村議員) 再生可能エネルギーの加速は疑う点がないが、そこに時間軸を入れ、基幹エネルギーではまず天然ガス発電やガスタービンの効率化等を進めて、それから再生可能エネルギーを導入するなど記載すべきではないのか。

(相澤議員) 前は基幹エネルギーを重点的取組に位置づけており、その中に原子力の安全研究を入れていたが、既に国として進められておりアクションプランでの重点化とは性質が異なるということで、今回重点的取組からは下げている。目指すべき社会の姿なりに、それをわかるように書くことを検討したい。アクションプラン全体について、全体のボリュームもまだ多いので、より簡潔になるように各担当議員に検討して頂きたい。